

科目名	音楽 I		選択必修修	使用教材	MOUSA (教育芸術社)
学年 学級	1 年全クラス	単位数	2	教科 担当	佐々木富美子

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで 楽典・ソルフェージュの基礎 歌唱・呼吸法・発声法の基礎 ・発声(親しみ易く、声出しに適した曲) ・混声4部合唱(合唱祭の課題曲) ・立川高校 校歌 ・独唱・2部合唱 器楽・カブス、ボディパーカッション	・表現に必要な知識や技術を身に付け表現に活かすことができる。①・歌唱では、正しい姿勢・腹式呼吸・美しい響きを得るための発声法を学び豊かに表現することができる。② ・器楽では持てる技能を活かし、曲に相応しい表現をすることができる。②・練習から積極的に授業に取り組み最終目標を限定せず表現豊かに発表に臨むことができる。③ ・豊かな音楽性や表現力を探究することができる。③
	期末考査 まで 楽典・ソルフェージュの基礎 歌唱・呼吸法・発声法の基礎 ・発声(親しみ易く、声出しに適した曲) ・混声4部合唱(合唱祭の課題曲など) ・キーボードアンサンブル:コード進行、伴奏 付けの学習 鑑賞・実技関連曲の鑑賞	・表現に必要な知識や技術を身に付け表現に活かすことができる。①・歌唱では、正しい姿勢・腹式呼吸・美しい響きを得るための発声法を学び豊かに表現することができる。② ・器楽では技能の習得を目指し、曲に相応しい表現をすることができる。②・積極的に授業に取り組み自主性をもって練習に取り組んでいる。③ ・豊かな音楽性や表現力を探究することができる。③
2 学 期	中間考査 まで 歌唱 ・日本歌曲・イタリア歌曲・混声4部合唱 器楽 ・ギター弾き語り、アンサンブル:コードの仕 組み等の習得	・表現に必要な知識や技術を身に付け表現に活かすことができる。①・歌唱では、正しい姿勢・発音・呼吸・美しい響きを得るための発声法を学び豊かに表現することができる。② ・器楽では練習から積極的に授業に取り組み最終目標を限定せず表現豊かに発表に臨むことができる。③
	期末考査 まで ・ギター弾き語り、アンサンブル:コードの仕 組み等の習得 ・ハンドベル:季節にふさわしい曲のアンサン ブル演奏 鑑賞 ・ミュージカルまたはオペラの鑑賞 ・実技関連曲等の鑑賞	・器楽では練習から積極的に授業に取り組み最終目標を限定せず表現豊かに発表に臨むことができる。③・練習から積極的に授業に取り組みグループで協力し合い表現豊かにアンサンブルを楽しむことができる。③・他者の音楽を聴き豊かな音楽性や表現力を探究することができる③・鑑賞では知識等をもとに音楽を感受し、曲に対する評価や価値・音楽表現の固有性や共通性について考えることができる。②
3 学 期	学年末考査 まで ハンドベルアンサンブル ～グループで選曲、練習、発表会～ 二重唱 ミュージカル美女と野獣 鑑賞 ・日本音楽の特徴 ・ミュージカルと舞台演劇の比較	・表現に必要な知識や技術を身に付け表現に活かすことができる。① ・持てる技能を活かし創意工夫しながら、曲に相応しい表現をすることができる。② ・ハンドベル発表課題に、積極的に協働的に参加できる。③

学習のポイント

- ・必要な物を必ず持参すること。・毎回の授業に出席し、意欲的に取り組み、提出物等をきちんと提出することが重要。
- ・グループ学習では、アンサンブルでの自分の役割を認識し、他のメンバーと協調して音楽を楽しみ自信をもって演奏する力をつける。・独奏や独唱では、実技テストに臨み、練習の成果を発揮する。(自主性、集中力をもって必要な準備練習を行う。)

ルーブリック評価			
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養	知識・技能	課題発見・解決力	粘り強く取り組む力
評価規準	音楽を形作っている要素を知覚し、表現に必要な基礎・基本的な知識及び技能を系統的かつ高度に身に付け、活用することができる。	音楽を感受し音楽表現の固有性や共通性について考え知識や技能を活かし、演奏に結び付けることができる。	あきらめず粘り強く取り組む大切さを理解し、豊かな音楽性や表現力を探究することができる。
A 立高生として目指すべき目標	4 音楽を形作っている要素を知覚し、表現に必要な基礎・基本的な知識及び技能を系統的かつ高度に身に付け、応用することができる。	音楽を感受し音楽表現の固有性や共通性について考え知識や技能を活かし、創意工夫、他者と協同しながら演奏に結び付けることができる。	あきらめず粘り強く取り組む大切さを理解し、積極的に豊かな音楽性や表現力を探究することができる。
B 立高生として求める標準	3 音楽を形作っている要素を知覚し、表現に必要な基礎・基本的な知識及び技能を系統的かつ高度に身に付け、活用することができる。	音楽を感受し音楽表現の固有性や共通性について考え知識や技能を活かし、他者とも協同し演奏に結び付けることができる。	あきらめず粘り強く取り組む大切さを理解し、積極的に豊かな音楽性や表現力を探究することができる。
	2 表現に必要な基礎・基本的な知識及び技能を系統的に身に付けている。	音楽を感受し音楽表現の固有性や共通性について考え知識や技能を活かし、他者とも協同し演奏に結び付けることができる。	あきらめず粘り強く取り組む大切さを理解し、積極的に豊かな音楽性や表現力を探究することができる。
C 立高生として初歩的段階	1 表現に必要な基礎・基本的な知識及び技能を理解している。	知識や技能を活かし、演奏に結び付けようとしている。	あきらめず粘り強く取り組む大切さを理解し、積極的に豊かな音楽性や表現力を探究することができる。
評価方法	レポート 行動観察	レポート 実技テスト	行動観察 実技発表
観点別評価	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する

科目名	音楽Ⅱ		自由選択	使用教材	MOUSA（教育芸術社）
学年 学級	3年自由選択	単位数	2	教科 担当	佐々木富美子

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間 考 査 ま で	オリエンテーション ・個別指導 進路に必要な実技 ソルフェージュ演習	受験に必要な実技や楽典の知識の段階的習得
	期末 考 査 ま で	・個別指導 進路に必要な実技 ソルフェージュ演習	受験に必要な実技や楽典の知識の段階的習得
2 学 期	中間 考 査 ま で	・個別指導 進路に必要な実技 ソルフェージュ演習	受験に必要な実技や楽典の知識の段階的習得
	期末 考 査 ま で	・個別指導 進路に必要な実技 ソルフェージュ演習	受験に必要な実技や楽典の知識の段階的習得
3 学 期	学年 末 考 査 ま で	・個別指導 進路に必要な実技 ソルフェージュ演習	受験に必要な高い実技や楽典の知識の習得

<p>学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）</p> <p>目標をもって着実に技能が身に付けられるように粘り強く取り組む。</p> <p>施行状況を確認し、計画的に演習を行う。</p>

ループリック評価			
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養	知識・技能	課題発見。解決力	粘り強く取り組む態度
評価規準	ソルフェージュの学習を通し必要な技能を身に付け、演習課題に取り組んでいるか。独奏、独唱の表現やテクニックの向上を目指し練習に取り組んでいるか。	課題内容に応じて自分の技能を磨き、苦手を克服しようと繰り返し練習や演習に取り組んでいるか。曲に対する正確なイメージをもって表現しようとしているか。	集中力をもって粘り強く課題克服のために熱心に取り組んでいるか。
A 立高生として目指すべき目標	4 音楽に対する専門性を意識しソルフェージュの学習に取り組む、表現に生かすための基礎基本の知識、技能を身に付けて活用し、豊かな表現力をもった演奏ができる。	課題内容に応じて自分の技能を磨き、苦手を克服しようと繰り返し練習や演習に取り組んでいるか。曲に対する正確なイメージをもって表現しようとしているか。	集中力をもって粘り強く課題克服のために熱心に取り組んでいるか。その成果を発揮できている。
B 立高生として求める標準	3 音楽に対する専門性を意識しソルフェージュの学習に取り組む、表現に生かすための基礎基本の知識、技能を身に付けて活用し、豊かな表現力をもった演奏に取り組んでいる。	課題内容に応じて自分の技能を磨き、苦手を克服しようと繰り返し練習や演習に取り組んでいるか。曲に対する正確なイメージをもって表現しようとしているか。	集中力をもって粘り強く課題克服のために熱心に取り組んでいるか。その成果を発揮できている。
	2 音楽に対する専門性を意識しソルフェージュの学習に取り組む、表現に生かすための基礎基本の知識、技能を身に付けて活用しようとしている。	課題内容に応じて自分の技能を磨き、苦手を克服しようと繰り返し練習や演習に取り組んでいるか。曲に対する正確なイメージをもって表現しようとしているか。	集中力をもって粘り強く課題克服のために熱心に取り組んでいるか。
C 立高生として初歩的段階	1 音楽に対する専門性を意識しソルフェージュの学習に取り組む、表現に生かすための基礎基本の知識、技能を理解している。	課題内容に応じて自分の技能を磨き、苦手を克服しようと努力している。曲に対する正確なイメージをもって表現することを理解している。	集中力をもって粘り強く課題克服のために熱心に取り組んでいるか。
評価方法	内容の理解・演奏の出来栄	自分なりの正確さ、美しさを持った表現力	自主性、学ぶ意欲、態度、正確さ
観点別評価	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する

科目名	美術 I		選択必修修	使用教材	新・高校生の美術 I (日本文教出版))
学年 学級	1年美術選択者	単位数	2	教科 担当	池田真弓・関谷美保子

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで オリエンテーション ①鉛筆デッサン「卓上の静物」 ・ エスキース ・ デッサン	年間を通しての授業進行、課題内容の理解。 ①・鉛筆の正しい使い方、削り方を理解し実践する。 ・ 練消しゴムの使い方と表現の工夫。 ・ 静物画において効果的な見せ方や構図を考える。 ・ 対象をよく観察し、陰影の様子や中の骨格、表面の質感の違い等を表現する。
	期末考査 まで ②シルクスクリーン版画によるプリント制作 ・ アイデアスケッチ ・ 下図制作 ・ カットシート作成 ・ プリント印刷 1～5回	②・生活の中で活用する道具にふさわしい、美しいデザインを考える。 ・ シルクスクリーンのカット技法について理解する。 ・ 道具類を正しく安全に使用し、版を仕上げる。 ・ 専用のインクや道具の使い方を理解し、綺麗に仕上げる。
2 学 期	中間考査 まで ③夏季課題「鑑賞レポート」 ④油彩画「人物」 ・ アイデアスケッチ ・ 下描き ・ 油絵具の使い方	③2学期以降の作品制作の下調べとして、美術館や博物館で実作品を鑑賞し、作家や作品・技法・歴史などを調べ、自らの感想を含めて、レポートとしてまとめる。 ④・モチーフや構図を考える。 ・ 油彩の道具の正しい使い方の理解と習得。
	期末考査 まで ・ 彩色 ・ 講評会 ⑤日本画(古典技法)「動植物」 ・ アイデアスケッチ ・ 下図作成(色鉛筆)	・ 効果的な使い方や表現のバリエーションを学び、自身の制作に活かす。 ・ 自身の作品の発表と振り返り。他者作品の鑑賞と感想。今後の制作や発想に役立てる。 ⑤・モチーフや構図を考える。 ・ 日本画の道具の正しい使い方の理解と習得。
3 学 期	学年末考査 まで ・ 下図転写 ・ 骨描きと隈取 ・ 胡粉の溶き方と水干絵の具の溶き方 ・ 彩色 ・ 講評会	・ 効果的な使い方や表現のバリエーションを学び、自身の制作に活かす。 ・ 自身の作品の発表と振り返り。他者作品の鑑賞と感想。今後の制作や発想に役立てる。

<p>学習のポイント(授業中や家庭学習の方法)</p> <p>年間を通して生活の中で資料収集などに励み、表現の幅を広げ、発想を豊かにする。</p> <p>専門性の高い画材に触れ、その歴史や文化を学ぶと共に、作品を大切に作る心を育む。</p> <p>進行状況や制作手順を確認しながら、計画的に作業を進める。</p> <p>進度に遅れが生じた場合は、自主的に居残り制作等で遅れを取り戻す。</p>
--

ルーブリック評価				
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養	知識 技能		思考力・観察力・判断力 発想力・表現力 課題発見解決力	粘り強く取り組む力 計画性 意欲
評価規準	芸術・美術における基礎基本から発展的な知識・技能を身に付け、内容を理解するとともに、作品制作の中で活用しより豊かな表現ができる。		課題内容に応じて、自分なりのイメージや狙いを定め、それらを表現するために素材や技法をどのように活用すればより効果的かを考え、完成度を高めていくことができる。	自らの課題を発見し、解決するための努力ができる。自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組む。準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
A	立高生として目指すべき目標	4	芸術・美術における発展的な知識・技能を身に付け、内容を理解するとともに、作品制作の中で活用や応用をして、完成度の高いより豊かな表現ができる。	自らの課題を発見し、解決するための努力ができる。自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組み、高い完成度の実現に挑戦する。自主的に準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
B	立高生として求める標準	3	芸術・美術における基礎基本の知識・技能を身に付け、内容を理解するとともに、作品制作の中で活用や応用することができる。	自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組み、高い完成度の実現に挑戦する。準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
		2	芸術・美術における基礎基本の知識・技能を身に付け、内容を理解するとともに、作品制作の中で活用することができる。	自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組み、完成度を上げる。準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
C	立高生として初歩的段階	1	芸術・美術における基礎基本の知識・技能を身に付け、内容を理解して、作品制作ができる。	自らの課題を発見し、解決するための努力ができる。自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組み、高い完成度の実現に挑戦する。準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
評価方法		課題内容の理解度と作品の完成度 技術力及び描写力 授業中の作品経過観察	課題及び作品の発想力や創造性 印象的なセンス 授業中の作品経過観察	自主性・意欲・学習態度 課題提出期限の厳守 授業中の作品経過観察
観点別評価		4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する

科目名	工芸 I		選択必修	使用教材	工芸 I (日本文教出版))
学年 学級	1年工芸選択者	単位数	2	教科 担当	池田真弓・関谷美保子

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間審査 まで オリエンテーション・授業進行について ①製図 第三角法 軸測投影法の完成予想図(スケッチ) 木取り計画図 ②<木>による生活用品の制作企画 「木工・漆・螺鈿作品の制作」 ・設計図の作成	年間を通しての計画的な授業進と課題内容の理解。 ①図法理解 ・正確で観やすく美しい製図の作成。 ・構想を伝えるための表現の習得 ②立体制作と塗装 ・形態の美しさと用途、強度を兼ね備えたデザインを考える。 ・合理的で有効な材料の使い方を考える。
	期末審査 まで ○木工 ・部材の木取り及び切り出し ・ダボ及び組継ぎ接合による組み立て(成形) ・木地調整(整形)と形状の完成	・道具、工具類の正しく安全な使い方の理解と習得。 ・隙の無い美しい接合と成形。 ・金属ヤスリによる整形と紙ヤスリによる木地調整。 ・木工パテによる木地仕上げ
2 学 期	中間審査 まで ○漆塗装・螺鈿装飾(合成漆・スライス青貝) ・下塗～中塗 ・螺鈿青貝の切り出しと貼り付け ・上塗 ・研ぎ出し～磨き・艶出し	・伝統工芸(漆・螺鈿)を知り、技法を理解する。 ・素材の美しさを生かした装飾デザインと技法の習得 ・自主的な作業の準備と後片付けの徹底。 ・螺鈿を美しく研ぎ出す。(耐水ペーパーの使い方) ・漆面を美しく磨き上げる。(研磨剤の使い方)
	期末審査 まで ③<土>による生活用品の制作企画 「陶芸作品の制作」 ・アイデアスケッチ ・粘土による成形～整形 △乾燥～△素焼 ・施釉 △本焼 ④<金属>による生活用品の制作企画 「ペーパーナイフの制作」 ・アイデアスケッチとデザインの考察 ・型紙作成	③ ・実用性に堪える陶作品の用途とデザインを考える。 ・粘土の性質、成形方法の理解と技法の習得。 ・構想した形状に整形する。 ・自主的な作業の準備と後片付け、掃除の徹底。 ④ ・用途を備えた美しくシンプルなデザインを考える。 ・道具、工具類の正しく安全な使い方の理解と習得。
3 学 期	学年末審査 まで ・けがき ・切断 ・ヤスリ ・磨き ⑤鑑賞	・手引き糸鋸による切断。 ・根気よく丁寧な作業を行う。 ・段階を踏んだ傷取り作業の実践。 ・鏡面の様に美しく磨き上げる。 ⑤ ・鑑賞により他者作品の特長を観察、評価する。 ・伝統工芸への理解を深め、愛着を持ち、生活に役立てる。

学習のポイント(授業中や家庭学習の方法)

年間を通して生活の中での観察や資料収集などに励み、状況に応じた物創りを志ざし、計画的な作業の進行を心がける。

様々な素材の特徴を知り、活用・応用することにより、発想を豊かにする。

制作を通じ、伝統工芸を身近に感じることを目標とし、作品を大切に作る心を育む。

進度に遅れが生じた場合は、自主的に居残り制作等で遅れを取り戻す。、安全に万全を期する。

ルーブリック評価					
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養	知識・技能（技術力）		思考力・観察力・判断力 発想力・表現力・応用力 課題発見解決力	粘り強く取り組む力 計画性 意欲	
評価規準	芸術・工芸における基礎基本から発展的な知識・技能を系統的に身に付け、内容を理解するとともに、作品制作の中で実技として活用しより豊かな表現ができる。		課題内容や目的に応じて、自分なりのイメージや狙いを定め、それらを表現するために素材や技法をどのように活用すればより効果的かを考え、思考、発想、適切な判断において具現化する能力を身に付けるとともに、課題発生時に自己解決ができる。	自らの課題を発見し、解決するための努力ができる。 自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組み、より佳い作品創造に挑戦し実現させようとする。準備・片付け・清掃等を積極的に丁寧に行う。	
A	立高生として目指すべき目標	4	芸術・工芸における発展的な知識・技能・技術を身に付け、内容を理解するとともに、作品制作の中で活用や応用をして、完成度の高いより豊かな表現ができる。	課題内容に応じて、自ら収集した情報を観察し、目的に応じて思考発想し、自己表現のために適切な判断において素材や技法をどのように活用すればより効果的かを考え、完成度を高めていくことができる。課題発生時に自己解決ができる。	自らの課題を発見し、解決するための努力ができる。 自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組み、個性豊かな創造と、高い完成度の実現に積極的に挑戦する。自主的に準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
B	立高生として求める標準	3	芸術・工芸における基礎基本の知識・技能・技術を身に付け、内容を理解するとともに、作品制作の中で活用や応用することができる。	課題内容に応じて、自分なりのイメージや狙いを定め、それらを表現するために素材や技法をどのように活用すればより効果的かを考え、作品の完成度を上げることができる。	自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組み、より佳い作品創造と高い完成度の実現に積極的に挑戦する。自主的に準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
		2	芸術・工芸における基礎基本の知識・技能・技術を身に付け、内容を理解するとともに、作品制作の中で活用することができる。	課題内容に応じて、自分なりのイメージや狙いを定め、それらを表現するために素材や技法をどのように活用すればより効果的かを考え、作品を完成することができる。	自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組み、より佳い作品創造と完成度の実現に挑む。 準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
C	立高生として初歩的段階	1	芸術・工芸における基礎基本の知識・技能・技術を理解して、作品制作ができる。	課題内容に応じて、思考、発想し、具現化するための適切な判断と実行で作品を完成させることができる。	自主的に粘り強く制作に取り組む意欲の大切さを理解し、作品創造に興味を持つ。 準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
評価方法		課題内容の理解度と作品の完成度 技術力 授業による実技観察	課題及び作品の発想力や創造性 印象的なセンス 授業による実技観察	作品制作に対する自主性・意欲・学習態度 課題提出期限の厳守 準備、片付け、清掃を積極的に行う 授業による実技観察	
観点別評価		4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	

科目名	美術Ⅱ(アート・デザイン)		自由選択	使用教材	高校生の美術2(日本文教出版)
学年 学級	3年自由選択	単位数	2	教科 担当	池田 真弓

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間 考 査 ま で	オリエンテーション ○個別指導：進路聞き取り確認と制作計画 ○指導内容 ・鉛筆デッサンA(観察再現表現)	・年間を通しての授業進行と課題内容の理解 ・観察力を高め、正確な形態を捉える ・鉛筆による表現技法の理解と習得 ・立体感、質感、量感、空間感等の表現の工夫
	期末 考 査 ま で	・鉛筆デッサンA ・鉛筆デッサンB(想定表現) ・デザイン(平面・立体等) ・絵画着彩(透明水彩・油画・アクリル) ・彫塑(彫刻・塑像等) 上記内容より各自選択・個別指導	・想定問題を踏まえ、発想力、構成力等を養う ・基礎技術の習得 鉛筆表現や練消しゴムの使用法を身に付ける 構図構成能力を身に付ける 観察力と表現力を身に付ける
2 学 期	中間 考 査 ま で	・鉛筆デッサンA ・鉛筆デッサンB(想定表現) ・デザイン(平面・立体等) ・絵画着彩(透明水彩・油画・アクリル) ・彫塑(彫刻・塑像等) 上記内容より各自選択・個別指導	・発想力、構成力の向上 ・基礎技術の習得と発展 鉛筆表現や練消しゴムの使用法の創意工夫 構図構成能力の向上 観察力と表現力の向上 課題解決能力を養う
	期末 考 査 ま で	・鉛筆デッサンA ・鉛筆デッサンB(想定表現) ・デザイン(平面・立体等) ・絵画着彩(透明水彩・油画・アクリル) ・彫塑(彫刻・塑像等) 上記内容より各自選択・個別指導	・発想力、構成力等の向上 ・基礎技術の習得と発展 鉛筆表現や練消しゴムの使用法の創意工夫 構図構成能力の向上 観察力と表現力の向上 課題解決能力を養う
3 学 期	学 年 末 考 査 ま で	受験直前対策、個別指導	盲点や問題点をピックアップして解決する。

学習のポイント(授業中や家庭学習の方法)

目標を立てて着実に技術を身に付け、表現の幅を増やし、発想を豊かにする。

進行状況や制作手順を確認しながら、計画的に作業を進める

ループリック評価				
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養	知識 技能		思考力・観察力・判断力 想定力・発想力・表現力 課題発見解決力	粘り強く取り組む力 計画性 意欲
評価規準	芸術・美術における基礎基本の知識・技能を身に付け、内容を理解するとともに、作品制作の中で活用しより豊かな表現ができる。		課題内容に応じて、自分なりのイメージや狙いを定め、それらを表現するために素材や技法をどのように活用すればより効果的かを考え、完成度を高めていくことができる。	自らの課題を発見し、解決するための努力ができる。 自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組む。準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
A	立高生として目指すべき目標	4	芸術・美術における基礎基本の知識・技能を身に付け、内容を理解するとともに、作品制作の中で活用や応用をして、完成度の高いより豊かな表現ができる。	自らの課題を発見し、解決するための努力ができる。 自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組み、高い完成度の実現に挑戦する。準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
B	立高生として求める標準	3	芸術・美術における基礎基本の知識・技能を身に付け、内容を理解するとともに、作品制作の中で活用、応用をし、完成度を上げることができる。	自らの課題を発見し、解決するための努力ができる。 自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組む。準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
		2	芸術・美術における基礎基本の知識・技能を身に付け、内容を理解し、作品制作の中で活用することができる。	自らの課題を発見し、解決するための努力ができる。 自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組む。準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
C	立高生として初歩的段階	1	芸術・美術における基礎基本の知識・技能の内容を理解している。	自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組む。準備・片付け・清掃等を丁寧に行う。
評価方法		課題内容の理解度と作品の完成度。技術力及び描写力。授業中の作品経過観察。	課題及び作品の発想力や創造性。印象的なセンス。授業中の作品経過観察。	自主性・意欲・学習態度 課題提出期限の厳守。
観点別評価		4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する